

Asia Indicators

発表日: 2024年8月30日(金)

韓国・台湾ともに生産底入れの動きに一服感(Asia Weekly(8/23~8/30))

～輸出財関連での生産下振れの動きが全体の足を引っ張る様相をみせている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

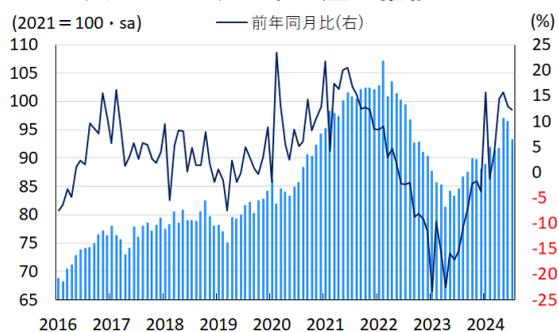
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/23(金)	(台湾)7月鉱工業生産(前年比)	+12.3%	--	+12.8%
8/26(月)	(シンガポール)7月鉱工業生産(前年比)	+1.8%	▲1.1%	▲4.3%
8/27(火)	(タイ)7月輸出(前年比)	+15.2%	+6.0%	▲0.3%
	7月輸入(前年比)	+13.1%	+2.8%	+0.3%
	(香港)7月輸出(前年比)	+13.1%	--	+10.7%
	7月輸入(前年比)	+9.9%	--	+9.0%
8/28(水)	(オーストラリア)7月消費者物価(前年比)	+3.5%	+3.4%	+3.8%
8/30(金)	(韓国)7月鉱工業生産(前年比)	+5.5%	+7.0%	+3.8%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～主力の輸出財である半導体など電子部品関連や電気機械関連などで生産底入れの動きに一服感～

23日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+12.3%となり、前月(同+12.8%)から伸びが鈍化している。前月比は▲3.27%と前月(同▲0.61%)から2ヶ月連続で減少しており、底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる。分野別では、鉱業部門の生産に下押し圧力が掛かる一方、製造業の生産に底堅さがみられるものの、製造業のなかでは主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連で生産底入れの動きに一服感が出ている一方、化学製品関連や縫製品関連、飲食料品関連などの生産の堅調さが生産全体を下支えするなど、分野ごとに跛行色が生じている。

図1 TW 鉱工業生産の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[韓国]～鉱工業生産は前年比で伸び加速も実態は頭打ち、輸出財を中心に生産下振れの動きが確認される～

30日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+5.5%となり、前月(同+3.8%)から伸びが加速

している。ただし、前月比は▲3.6%と前月（同+0.7%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。分野別では、頭打ちの動きが続く鉱業部門の生産は一段と下振れするなど底のみえない展開が続いているほか、建設関連の生産も同様に下振れの展開をみせるとともに、製造業の生産も頭打ちの動きを強めるなど全般的に生産活動が低迷している。縫製品関連や化学製品関連などの生産に底堅い動きがみられるものの、主力の輸出財である自動車をはじめとする輸送用機械関連のほか、半導体をはじめとする電子部品関連、電気機械関連などで軒並み生産が下振れしており、外需を取り巻く環境の変化が生産活動の足かせになっている様子が見えてくる。

図2 KR 鉱工業生産の推移

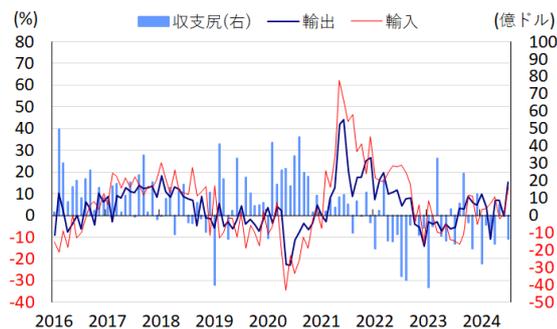


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～輸出入ともに底入れの動きを強めるなか、輸入の大幅拡大を反映して貿易収支は3ヶ月ぶりの赤字～

27日に発表された7月の輸出額は前年同月比+15.2%となり、前月（同▲0.3%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である自動車の輸出は下振れするとともに、原子炉関連の輸出にも下押し圧力が掛かる一方、金の輸出額が大きく上振れしているほか、電気機械関連の輸出も拡大している上、農産品関連の輸出も堅調な推移をみせて輸出全体を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+13.1%となり、前月（同+0.3%）から伸びが加速している。前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。商品市況の底入れの動きを反映して原油をはじめとするエネルギー資源や鉱物資源関連の輸入額が押し上げられているほか、輸出の堅調さを反映して素材、部材関連の輸入も堅調な推移をみせている。結果、貿易収支は▲13.73億ドルと前月（+2.18億ドル）から3ヶ月ぶりの赤字に転じている。

図3 TH 貿易動向の推移

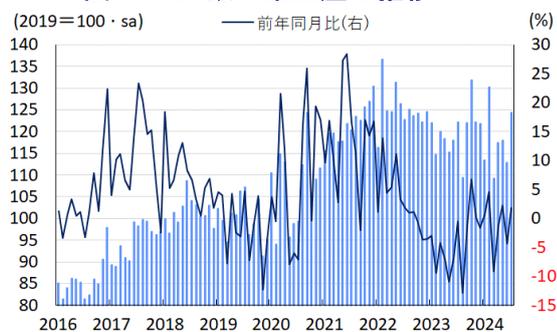


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～バイオ・医薬品関連のほか、主力の輸出財である電子部品関連などで生産底入れが続く～

26日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+1.8%となり、前月(同▲4.3%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+10.12%と前月(同▲4.30%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。なお、シンガポールではバイオ・医薬品関連の生産が月ごとに大きく上下に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲13.90%と前月(同+17.29%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせている。バイオ・医薬品関連を除いたベースでも当月は前月比+4.13%と前月(同▲6.95%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じているほか、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きが確認されている。化学製品関連や精密機械関連で生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、機械製品関連で生産拡大の動きが続いており、生産全体を下支えする展開をみせている。

図4 SG 鉱工業生産の推移

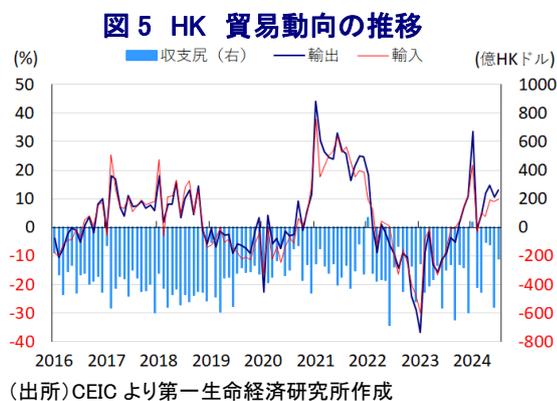


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～輸出は幅広く底入れの動きをみせるとともに、輸入も一進一退の動きをみせるも底打ちしている～

27日に発表された7月の輸出額は前年同月比+13.1%となり、前月(同+10.7%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である機械製品関連のほか、金属をはじめとする鉱物資源関連の輸出も堅調な動きをみせている。国・地域別でも、中国本土向けのほか、米国向けやEU向け、アジア新興国向けの堅調さが輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+9.9%となり、前月(同+9.0%)から伸びが加速している。前月比も2ヶ月ぶりの拡

大に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅く推移している。財別では、機械製品関連や食料品関連の輸入に下押し圧力が掛かる一方、国際商品市況の底入れの動きを反映して鉱物資源関連の輸入が押し上げられて輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は▲218.42億HKドルと前月（▲557.40億HKドル）から赤字幅が縮小している。



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。